
ロボック

ペーこ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ロポック

【Nコード】

N1770N

【作者名】

ペーこ

【あらすじ】

素直だけが取り柄な十七歳の美樹。そんな美樹のやきそばパンから始まった物語！ちよ、ここどこ？ロポック？そんな国知らないよ！バカな女子高生と美形な男女＋珍獣が今日も元気に頑張っています！一応15禁ですが人によってはえ？コレが？な内容かもしれません。 下品です。

イジメなんてやっちゃいかんよ。うん。(前書き)

初めての小説です！生温かい目で見守ってやってください！
感想、ご指摘、待っています！

イジメなんてやつちやいかんよ。うん。

私は昔から、素直さが取り柄だったのだ。

だから、素直に「ありがとう」「うれしい」なんて言葉はすぐに口からでるし、

反対に、「嫌だ」「さみしい」なんてのもすぐにでた。

小学校の時、リーダー格の女の子の命令は絶対だったけど、一人だけ彼女の命令は聞かなかった。

だって、「嫌」だったし。

それから、その子にイジメられでもするかなあと思っていたけど、何故か、変に、彼女に気に入られてしまった。

中学の時、気になっていた彼に、みんなの前で告白された時はそりやもう恥ずかしかったけど、私はこれまた素直に、大声で、「私も好き！」ってなことを言った。

まあ、その彼とは半年で終わってしまったけども。

その取り柄は大きくなったら自重しなきゃいけなかったのだろうか？

「むかつくんだよねーアンタ見てると」

『私もむかつくよ。アンタらの顔見ると』

「その口ほんつと黙らしといたほうがいいよ?」

『は?』

「しゃべんなって！」
パシッ

『いったあ……………』

「アンタなんか死ねばいいのに」

「ほんまそれー」

「死んじゃえ！死んじゃえ！」

この子たちはこんなこととして楽しいのだろうか。
ましてや、この平々凡々なこの私に。

いや、超絶美少女がいきなり転校してきて、
嫉妬しちゃってーみたいなカンジだったら笑えるのにな。
いや、笑えないか。

っていうか、私、一年の時から、学校いるし。
美少女つてところもはつきりいつてない。

私の容姿は中の下か下の上くらいで十分だろう。

「ちよつと？聞いてんの？」

『へ？あ、ごめん聞いてなかった』

「アンタ…………調子に乗るのもたいがいにしてよね」
ドンッ

わわわ、押すなよ。バカ共め。

ゴンッ

『いーーーーーっ たーーーーい!』

ちよ、うったよ! 頭ゴンって!

血でたらどうしてくれんだよ! あ、申し遅れました。私、花の十七歳の乙女、須崎美樹すざき、高校二年生ですよ。はい。

さきほど、私を思うぞんぶん罵っていた目の前の彼女達は
と逃げたか . . . ッチ。

私と同じクラスの女子共ですよ! 名前は 確か 山田花子とその他仲間達だったような。

え? 違うだろって? じゃあ、女子A (山田花子) とその他の女子共で。

そーだなー!。彼女達とこんな関係になっちゃったのは去年の春からかなー!?

今にも、鼻をほじくりだしそうなほどヒマそうな顔の新生入生が私。

入学式やたら校長、話長いし、ヅラずれてるし、横のケバケバな女からはものすごいほど強烈な臭いがするし、あ、横の女はけつして、う。ちの臭いがするわけじゃないよ?

香水の臭いがちよー! っ とばかり臭うだけで

いや、ちよっ とじゃない! ああ臭いは嘔吐しそうなほどの臭いだ!! じゃあ、その横の女の名前はう。ち臭女でいいか。

あ、いや、問題はその女じゃなくてね、私の席からその女のも一つ横の女なんだよ。

その女がよーするに女子A (山田花子) だよ。うん。

結構かわいいんだよ? うん。

でもね、女子Aの頭にさーそりやもうでっかいカナブンがいたわけよ。

え? 誰も気づいてないの? って周り見渡してみただけど誰も気づいてないご様子。

よっしゃ！言つてやらねえーとかawaiiそうじゃないかと、私は女子A（山田）にそーっと、『あの、カナブンが頭についてますよ』って言ったのよ。

「へ？」案の定気づいてないご様子だったのもう一回！『カナブンが頭についてるんですよ！』

「ええええ？」ブーーーーーン！ピトツ……………っと、

カナブン野郎は今度は女子A（花子）の鼻に移動したわけよ。

さすがの私でもひいたわーだって、女子A（yamada）はいきおいよくたちあがつて「きゃあああー」まではいいんだけどその後のぶーーーーー（おなら）がいけなかったな。

びっくりしたんだろうけど、ぶーーーーー（屁）は乙女としてはいけなかったな。

案の定、女子A（hanako）はその後、カナブーーーーー女というあだ名が男子共に命名された。

で、私がその根本だということとで女子A（山田花子氏）とその他の女子共に目をつけられたのでありますよ。

『考えてみたら、やつぱおかしな話だよなーったく。』

せつかくの、購買のおばちゃん特製の焼きそばパンがまずくなる話だよ。

ああ、でも、幸せ！私はこのパンを屋上で食べるのが一番好きなのだ！

そしてここは私のパラダイス！もといい、屋上なのである。

『ふー、野球少年達は今日もがんばってますなー』

ちなみに、下のグラウンドでがんばっている少年達にひそかにエールを送るのが私の日課なのである。

あ、またちなみにんだけど、私、友達いないから、一人で食べるのよ。

まー、女子に嫌われてちゃーしかたないんだろっけどねー

イジメなんてやっちゃいかんよ。うん。(後書き)

主人公バカです。はい。

ついでに、作者もバカです。はい。

自分的にはう。ち臭女が一番かわいそうかな・・・
自分で書いという何なんですけど・・・

後悔とはこのことだよ。うん。(前書き)

初コメントにてやる気がでてきたので
がんばって書いてみます！

感想・ご指摘もよろしく願います！
「」が主人公で『』が他のキャラです。

後悔とはこのことだよ。うん。

私の人生もここで、ジ・エンドってか。

華の十代だったのに、死んじゃうのか。

ああー、こんなことなら昨日、ケチらずにハーゲ。ダッツのグリーンティー味買っておけばよかったよ。

ケチってガ。ガリくんを買った昨日の私をぶん殴ってやりたいよ。まったく。

ついでに、スルメとカリカリ梅も大量買いしておくんだった。

しかも、

購買のおばちゃんの特製焼きそばパンも食べれないってことじゃん。

いや、まてよ。

もとはといえば、この焼きそばパンのせいで私はこんな目になったんだったよ。

あ、でも、

ちよつとだけ変に食い意地をはった私のせいでもあるか。（１０割自分のせいです。）

どっちにしても、焼きそばパンで死んじゃった女子高生ってどうよ？！

いやだ！焼きそばパンで死ぬのは絶対やだ！！

え、ちょ、なんか意識が遠のいていくかんじがするよ。

やだよ・・・まだ死にたくないよ。

『おい！　おい！　おいってば！』

『．．．．．なあ、シェシェ。こいつ起きねえんだけど』

『んー．．．困ったわね．．．シエル、軽く揺らしてあげれば？』

『え？ それ、俺がやんの？』

『当たり前でしょ。アンタ以外に誰がやんのよ』

『だって、コイツなんかキモいし。ほら、なんかニヤニヤしてる』

『．．．．．早くやれよ』

『．．．．．チツ．．．．．しゃーねえな。おい！ 起きろって！』

ユサユサ

「うーん．．．うつふ」

『．．．．．』
『．．．．．』

『やっぱ俺、コイツ起こすのやだ』

『もう一回やってよ』

『やだ』

『一回だけ』

『やだ』

『私の言つこと聞けないのかしら？ ふふ』

『・・・チッ』

コサコサ

「うーーーーん。ぐふっ」

『・・・もうやだ。俺』

『・・・しかたないわね。こういう奴には平手打ちするのが一番なのよ』

「ちょ、マジでやんのか?!」

「何？ もう一回やるの？」

『やらないけど！　．．　っていうか、やるんなら最初からやれよ』

ばーんっ

「へぶしッ！　じるばちよふッ！」

□ □ • • • • • □ □

「あれ？　ここどこなの？　．．．．．は！　まさか、天国

なの?! やったわ!! やった!! でも、なんか、ほっぺたが
妙に痛いんだけど! なんか、ヒリヒリする!!」

(シエシエ。コイツ、ちょっと頭がいかれてるぜ? 叩くの強くしすぎたんじゃねえの?)

(そんなに強くやったつもりはないんだけど。私)

(もう一回叩いて正常に戻してやれよ)

(しかたないわね)

バシンッ

「あちょん! へぶし! . . . 何するんすかボインのお姉さん!」

バシコンッ

「へぶしッ！ ふっふーい！ ．．．ちよ、

バシッ

「ちよ、やめてボイン

バシンッ

「へぶし！ うふん！ ちよ、ほんと、マジやめt

バシコンッッ

「ちよ、もーうッッッッッッ！ 私が、叩かれることに、快感をもってしまったらどうするんですかーッッッッ？？？！．．．！！」

『．．．．．．．．シエシエ』

『．．．．．．．．わかってるわ』

「え、ちょ、なに?! なになに?! なんか、スコップもって何する気なんすかアナタたち!!!」

『え、アンタ、埋めようとして!』いやあああああ! 犯罪!
! 犯罪だからそれ!」

『...』

「ちょ、穴、掘らないでよおおおおッッッッッ!」

後悔とはこのことだよ。うん。(後書き)

主人公の好物は作者と一緒にです。

主人公、変態かもしれません。

新しいキャラができました。

名前もちらっとできました。

なんか、変なところで終わりました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1770n/>

ロボック

2011年1月7日09時06分発行